

図表リスト

第1章

表 1-1	魚種別漁獲量の推移(1990~2000年)	1-2
図 1-1	魚種別漁獲量の推移(1990~2000年)	1-2
表 1-2	月別漁獲量(1995~2000年)	1-2
図 1-2	月別漁獲量(1995~2000年)	1-3
図 1-3	水産物の需給状況	1-4
図 1-4	グレナダの主要道路網	1-5
図 1-5	主要産物の流通経路	1-5
表 1-3	経済基礎指標(1999年)	1-10
表 1-4	グレナダ国の産業のGDP比率	1-11
表 1-5	グレナダの輸出高(FOB)	1-11
表 1-6	グレナダの輸入高(CIF)	1-12
表 1-7	その他の経済指標	1-12
表 1-8	要請計画の主要コンポーネント	1-15
図 1-6	我が国の援助プロジェクトサイト	1-16
表 1-9	JICAの技術協力実績	1-17
表 1-10	他ドナーの援助状況	1-18

第2章

図 2-1	グレナダ政府組織図	2-1
図 2-2	農業国土林業水産省の組織図	2-2
図 2-3	水産局の組織図	2-3
図 2-4	公共事業省 PIMU の組織図	2-4
表 2-1	予算実績	2-5
表 2-2	産業別の財政投融资計画	2-6
表 2-3	各漁業センター(魚市場)の運営状況	2-6
表 2-4	既存施設の現況	2-8
表 2-5	現在の道路幅員	2-10
表 2-6	道路区分と道路用地、建築物規制	2-13
図 2-5	工事中迂回路	2-14
表 2-7	月最高平均気温、および月最低平均気温	2-15
表 2-8	月平均湿度	2-16
表 2-9	月平均雨量、および月最高雨量	2-16
表 2-10	最近10年間の平均雨量	2-17

第3章

表 3-1	計画の基本構想	3-2
図 3-1	既存漁業センター(魚市場)	3-8
表 3-2	グランドエタン道路の改善箇所優先順位	3-26
表 3-3	地域別漁業生産量	3-32
図 3-2	月別漁業生産量	3-33
表 3-4	地域別漁船数及び漁業者数	3-33
図 3-3	グレンヴィル漁業センター(魚市場)の魚取扱量	3-34
表 3-5	グレナダ国の水産物流通概要	3-34
表 3-6	水産物の需給バランス	3-35
表 3-7	グレナダ国における漁業生産量と各地域の鮮魚消費量	3-35
表 3-8	グレンヴィルにおける月別最高・最低気温の推移(1978年～1984年)	3-36
表 3-9	グレナダ国月別湿度の推移(1992年～1996年)	3-37
表 3-10	グレンヴィルにおける月別降雨量の推移	3-37
表 3-11	セントジョージズにおける風速	3-38
表 3-12	計画棧橋先端付近の波向と波高	3-40
表 3-13	水質分析結果	3-41
表 3-14	底質分析結果	3-41
表 3-15	土質調査結果	3-42
図 3-4	自然条件調査サイト図	3-43
表 3-16	水揚漁船隻数(1999年)	3-44
表 3-17	棧橋所要延長の計算	3-45
表 3-18	1999年2月の魚取扱量	3-46
表 3-19	1999年3月の魚取扱量	3-47
表 3-20	上位10日間の水揚げ量及び平均	3-47
表 3-21	製氷機1基案及び2基案の比較評価	3-48
表 3-22	造成地比較検討表	3-59
表 3-23	敷地計画高	3-61
表 3-24	護岸断面の比較検討	3-62
表 3-25	棧橋構造の比較検討	3-64
表 3-26	杭式棧橋上部工の比較検討	3-65
表 3-27	給水方式の比較評価	3-68
表 3-28	基本計画表	3-74
図 3-5	全体配置図	3-76
図 3-6	陸上施設配置図	3-77
図 3-7	魚市場および漁民ロッカー棟平面図	3-78
図 3-8	魚市場および漁民ロッカー棟立面図	3-79
図 3-9	水揚げ棧橋構造図	3-80
表 3-29	現況日交通量	3-83
表 3-30	幾何構造基準	3-83
図 3-10	道路最小標準横断面図	3-85
図 3-11	橋梁の標準横断面構成	3-85
表 3-31	ヘアピンカーブ部構造比較検討	3-87
図 3-12	各橋梁架橋地点における河川計画断面	3-93

表 3-32	橋長と径間数	3-96
表 3-33	標準適用径間	3-97
表 3-34	各橋梁の比較対象橋種	3-97
表 3-35	下部工形式の選定表	3-99
表 3-36	バーチグローブ橋 橋梁形式選定表	3-100
表 3-37	バルタザール橋 橋梁形式選定表	3-101
表 3-38	道路改良の概要(1)	3-102
表 3-39	道路改良の概要(2)	3-103
表 3-40	道路改良の概算数量	3-104
図 3-13	ヘアピンカーブ部基本設計図	3-105
図 3-14	ヴェンドーム橋取付道路の基本設計図	3-106
図 3-15	バーチグローブ橋取付道路の基本設計図	3-107
図 3-16	バルタザール橋取付道路の基本設計図	3-108
表 3-41	橋梁計画の概要	3-109
表 3-42	橋梁施設概算数量	3-110
表 3-43	橋梁補修概算数量	3-110
図 3-17	バーチグローブ橋基本設計図	3-111
図 3-18	バルタザール橋基本設計図	3-112
図 3-19	セントシル・グレートリバー橋基本設計図	3-113
表 3-44	資機材調達品リスト	3-118
表 3-45	業務実施工程表(実施設計及び水産施設)	3-120
表 3-46	業務実施工程表(道路改良工事)	3-121
表 3-47	事業負担区分	3-122
表 3-48	魚市場要員表	3-123
表 3-49	概算事業費総括表(日本側負担分)	3-125
表 3-50	グレナダ国側負担工事	3-125
表 3-51	年間維持管理費	3-126

第4章

表 4-1	計画実施による効果と現状改善の程度	4-2
-------	-------------------	-----

略語集

CARICOM	Caribbean Community	カリブ共同体
CDB	Caribbean Development Bank	カリブ開発銀行
CDL	Chart Datum Level	工事用基準面
CIDA	Canadian International Development Agency	カナダ国際協力事業団
CIF	Cost Insurance & Freight	輸送保険料を含む荷揚港渡し の資機材費及び輸送費
CUBiC	Caribbean Uniform Building Code	カリブ設計基準
FOB	Free On Board	船上渡し価格
FRP	Fiber Reinforced Plastic	繊維強化プラスチック
GCFL	Grenada Commercial Fisheries Limited	グレナダ商業漁業公社
GDP	Gross Domestic Product	国内総生産
GRENELEC	Grenada Electricity Service Ltd.	グレナダ電力会社
GT	Gross Tonnage	排水量
HACCP	Hazard Analysis Critical Control Point	危害分析重要管理点
HWL	High Water level	大潮平均高潮面
IFAD	International Fund for Agricultural Development	国際農業開発基金
IMF	International Monetary Fund	国際通貨基金
LWL	Low Water Level	大潮平均低潮面
MHHWL	Mean High High Water Level	平均高高潮面
MLLWL	Mean Low Low Water Level	平均低低潮面
MSL	Mean Sea Level	平均水面
OECS	Organization of East Caribbean States	東カリブ諸国機構
PC	Precast Concrete	事前成型コンクリート
PIMU	Project Implementation Management Unit	プロジェクト実施監理部
RC	Reinforced Concrete	鉄筋コンクリート
VIF	Venezuela Investment Fund	ベネズエラ投資基金

要約

要 約

グレナダは、東カリブ海の小アンティル諸島のうち、南方のウィンドワード諸島に属するグレナダ島、キャリアコウ島、プチ・マルティニク島の3つの主な島からなる島嶼国である。最近の統計では人口約9万7千人、GDP 366百万米ドル、一人当たりGDP 3,630米ドル(1999年推定)である。

同国の主要産業は伝統的な農業、水産業と観光業である。主要作物はナツメグ、シナモン、ジンジャー、ブラックペッパー等の香料があげられる。このほか、バナナ、ココア等も栽培している。グレナダでは1990年代初めに、米国をはじめとする諸外国からの援助が大幅に減少し、農業生産の不振も重なり成長率が2%以下に落ち込むなど、同国経済は深刻な状況に陥った。このため1992年から3ヶ年の構造調整を実施した。公務員数削減、債務減少などにおいては一定の成果をあげたものの、経済成長に対する効果は不十分であり、失業増加、物価上昇を招くこととなった。1996年の物価は食料、燃料がそれぞれ対前年比4.5%、7.6%と大幅に上昇し、国民の家計を圧迫するなど、同国経済は再び厳しい状況に追い込まれることとなった。

このような切迫した経済状況の中、同国政府は1994年より、公共投資増加、国際競争力増加、失業減少、福祉改善、環境保護などを目的とする中期経済戦略を策定し、経済再建に努力してきている。これらの努力の結果1999年の経済成長率は6.2%と回復を見せている。現在は、中期経済戦略の第四次(2000~2002年)を実施中である。水産分野はGDPへの貢献度で約1.2%であるが、農林水産分野の輸出高の約20%を占めており、同国経済の中で、今後産業振興の可能性の高いセクターとして重要な位置付けにある。

グレナダ周辺海域は、南赤道海流に乗ったまぐろ類など高度回遊性魚種の回遊経路にあたり、毎年1月から6月頃にかけて好漁場を形成することで知られている。また、グレナダ島周辺の陸棚面積は3,100km²あり、隣国セント・ヴィンセントの1,800km²を上回り、多様な底魚資源を有する。このような恵まれた漁業立地条件から、グレナダ国民の魚食嗜好は強く、1人当りの年間消費量は約20~27kgと推定されている。しかし、年間の漁業生産量で見ると、盛漁期(1~5月)と閑漁期(7~11月)の格差が大きく、国内の観光需要も観光客の増加に比例し増えていることから、一般消費者向けの生鮮魚介類は慢性的な供給不足の状況にある。このため、はた・たい類などの高級底魚類、まぐろ類などの高度回遊性魚類、コンク貝など観光需要の高い貝類等を年間400~500トン(国内総生産量の約4分の1に相当)も輸出している反面、この輸出量を上回る500~700トンの水産物(塩ダラ等の塩干品、魚類缶詰等加工品)を輸入して国内需要を補っている。

グレナダ政府は、水産部門の輸出振興とともに、水産物の国内流通体制の整備促進により漁獲後の損失を減少させ、実質的な水産物の国内供給量を増大することによって国内需要・観光需要の充足を図り、均衡のとれた漁業開発政策を展開していく方針である。しかしながら、漁業資源の持続的かつ効果的な利用を基本として、この均衡ある漁業開発政策を推進していくには、グレナダ島の西海岸に比べ開発の遅れている東海岸の漁業振興が必要不可欠であり、現在、その効果的な振興促進が重要課題となっている。また、東海岸のグレンヴィルは漁業活動が盛んで、国内総漁業生産量の25~30%を占める同国最大の水揚地であり、若い漁業後継者も多い。そういう恵まれた状況にあるにもかかわらず、首都圏市場への最短ルートで

ある東西を縦断するグランドエタン道路が未整備であり、魚市場の施設機能も建設後 30 年近くになることから大幅に低下してきており、地元以外の市場への適切な販路も十分に開拓されていない。このため、とくに 2~4 月の最盛漁期にはその漁獲物の多くが有効に利用されておらず、漁業者の生産活動が徒労に終わっている。これは、一つには既存のグレンヴィル魚市場施設が老朽化し、魚小売スペース等が必要な漁獲物の取扱い量に対して不足し手狭になってきているためである。もう一つは、東西を横断するグランドエタン道路が、グレナダ島中央の山岳地帯を通過しているため、狭隘・急勾配・急カーブ等の難所が数多くあり、水産物や農産物などの地場産品および同生産資材等を運搬する業務用のトラックにとっては安全性に欠ける道路状況となっていることに起因する。

このため、グランドエタン道路の早急な改修による首都圏市場へのアクセス向上、情報伝達の向上とともに、グレンヴィル魚市場の改修が、グレンヴィルを中心とする同島東海岸の水産物を主体とする地場産品の物流を促進させ、同地域の経済を振興していく上で極めて重要かつ緊急な課題となっている。

このような背景の下に、グレナダ政府は、グレンヴィル魚市場等水産施設の建設および首都圏とグレンヴィルを結ぶグランドエタン道路・橋梁の改修を通じ、グレナダ島の西海岸に比べ開発が遅れている東海岸のグレンヴィルを基点とする水産物流通体制の整備改善を図り、漁業資源の持続的かつ効果的な利用および開発における東西の地域格差是正を図ることを目的とする「グレンヴィル水産物流通改善計画」を策定し、我が国に無償資金協力を要請してきた。グレナダ政府のこの要請に対して日本国政府は調査を行うことを決定し、国際協力事業団は以下の調査団を現地に派遣し、予備調査および基本設計調査を実施した。

予備調査	: 2000 年 3 月 22 日 ~ 4 月 10 日
基本設計調査	: 2001 年 6 月 27 日 ~ 8 月 16 日
基本設計概要説明調査	: 2001 年 10 月 25 日 ~ 11 月 4 日

予備調査では、グレナダ国の水産事情、道路事情およびグレンヴィルと首都圏間の水産物流通体制を確認し、計画サイトの妥当性の検討、及び無償資金協力として実施する必要性の検討を行い、この結果を受けて基本設計調査を実施した。これらの現地調査および国内解析を通して、計画の背景、内容、自然条件、維持管理体制、建設事情等を検討し、無償資金協力案件として適切な内容、規模を以下のとおり策定した。

計画施設の規模・内容

名称	内容	数量
< 水産施設 >		
水揚げ棧橋	所要延長：約 130m、水深 1.5m、杭式プラットフォーム、くの字型	1 式
魚市場施設		
-1 魚市場建物	魚市場棟 平屋建 約 770 m ²	1 棟
-1 . 小売区画	228 m ² 小売ブース×15 区画、流し台×6 加工台、うろこ取り用流し×4 台	1 式

-2. 製氷・貯氷設備	33 m ²	製氷能力約 2.0 トン/日 (1 トン機 × 2 基) 貯氷 4 トン (2 日分相当)	1 式
-3. 冷蔵庫	49 m ²	約 1.2 トン (2 区画に分割)	1 式
-4. 倉庫区画	36 m ²		1 式
-5. 魚加工室	66 m ²		1 式
-6. 魚処理場	159 m ²	荷捌場、計量場、エラ腹抜場、及び 各作業に必要な通路スペースを含む	1 式
-7. 衛生設備	54 m ²	シャワー、トイレ及び小売商用ロッカー室	1 式
-8. 事務室区画	77 m ²	売場監督室 × 1、34 m ² 、 施設管理事務室 × 1、43 m ²	1 式
-9. 配電盤室	11 m ²	受電盤及び配電盤室	1 式
-10. その他設備		下水排水設備 (トイレ・シャワー、魚処理場等) 貯水槽 (天水用約 10 トン) 無線アンテナ塔 (約 12m 高さ)	各 1 式
-2 ワークショップ	54 m ²	漁船エンジン整備用 スリップウェイは、ワークショップ前浜を利用	1 式
-3 漁民倉庫 (漁民ロッカー)	294 m ²	30 室 264 m ² トイレ・シャワー室 約 30 m ²	1 式
外構施設			
-1. 駐車場及び 構内道路		駐車容量約 16 台 (アスファルト、コンクリート舗装、一部インターロッキング)	1 式
-2. 照明設備	400W	8 灯	1 式
< 道路関係 >			
道路改良			
-1. ヘアピンカーブ部		道路延長 L=380m、全幅員 6.50m (車道 6.00m)、アスファルト舗装、擁壁：井桁ブロック積み、練石積み、排水：U字型、防護柵 (ガードレール)	1 式
-2. ヴェンドーム橋取付け道路		道路延長 L=104.6m、全幅員 8.00m (車道 6.00m)、アスファルト舗装、擁壁：練石積み、排水：素堀側溝、防護柵 (コンクリート製高欄、ガードレール)、河床補修：(栗石 + コンクリート) 5.4m ³	1 式
-3. パーチグローブ橋取付け道路		道路延長 L=86.5m、全幅員 7.50m (車道 6.00m)、アスファルト舗装、擁壁：重力式、迂回路 (上流側)：道路 50m (仮橋 32m 含む)	1 式
-4. バルタザール橋取付け道路		道路延長 L=194m、全幅員 7.50m (車道 6.00m)、アスファルト舗装、排水：L型側溝、素堀側溝、防護柵 (ガードレール)	1 式
橋梁改修			
-1. パーチグローブ橋 (架け替え)		上部工形式：PC2 径間連結連続バルブ T 桁、 下部工形式：逆 T 式橋台 2 基、壁式橋脚 1 基、橋長 L=31m、幅員 8.30m (車道 3.00m × 2)、高欄：コンクリート製高欄 + 鋼製高欄、 護岸工：練石積み、護床工：練石積みコンクリート	1 式
-2. バルタザール橋 (架け替え)		上部工形式：PC2 径間連結連続バルブ T 桁、 下部工形式：逆 T 式橋台 2 基、壁式橋脚 1 基、橋長 L=41m、幅員 8.30m (車道 3.00m × 2)、高欄：コンクリート製高欄 + 鋼製高欄、 護岸工：練石積み、護床工：練石積みコンクリート	1 式
-3. セントシルグレート リバー橋 (補修)		既設橋梁補修、 補修工：上部コンクリート (24N/mm ²) 6.2m ³ 護床工：コンクリート (18N/mm ²) 63.0m ³ 洗掘防止工 (玉石 + コンクリート) 96.0m ³	1 式

計画機材の規模と内容

名称	仕様	数量	使用目的
海水ポンプ	投げ込み型 約0.2m ³ /min、 (ホース等付属品を含む)	1組	漁船底洗い等に使う。
手押し車	積載荷重 300kg (最大 500kg)	5台	施設内での魚や氷、資材の運搬に使う。
保冷箱・魚箱	保冷箱：750リットル型 魚箱：寸法 720mm × 480mm × 200mm、 積重ね可能	2個 65個	魚一時保管用に使う。冷蔵庫内での魚保管および施設内での魚運搬等に使う。
計量秤	小売用：卓上天秤型、0～20lbs 台秤：床置型、0～200lbs	17台 2台	魚小売目的の計量用 荷捌き場での計量用
無線装置	マリンバンド VHF 容量切替型 マリンバンド SSB	1式 1式	漁船との交信用 (安全確保、水揚情報提供等)
ワークショップ用修理工具	工具セット (小型エンジン修理用工具、ボール盤、万力、油圧プレス、電動グラインダ、チェンブロック等)	1式	小型エンジン修理用

本計画を日本の無償資金協力により実施する場合、全体工期は実施設計を含め1年11ヶ月が必要とされる。概算工事費は、日本側14.02億円、相手国側約2百万円と見積もられる。

なお、グレンヴィル水産施設の予想される維持管理費は年間193.5千東カリブドル (1東カリブドル=45.10円、2001年11月) であるが、この費用は氷の販売収入および魚小売区画使用料、冷蔵庫保管料等の施設使用料により負担できると考えられる。また、グランドエタン道路・橋梁改良箇所の維持管理費は年間27千東カリブドルと見込まれるが、この維持管理費用はすべて公共事業省PIMU (プロジェクト実施監理部) の道路関連整備予算で負担可能であると判断される。

本計画の実施によって、以下のような効果が期待され、無償資金協力案件として妥当かつ有意義と判断される。

(1) 直接効果

1) グレンヴィル水産施設

水揚棧橋の整備により、自然の浜で海水に浸りながら出漁準備・水揚・係留作業などを行う必要がなくなり、これら日々の作業に要する時間が短縮される。

グレンヴィル魚市場施設を新設することにより、つぎの効果が期待できる。

- ア) 魚小売区画を現在の6ブースから15ブースに増やすことで、独占状態の緩和と魚取引の自由競争・サービスの向上が図られる。
- イ) グレンヴィル魚市場での魚取引、出荷流通用に必要な日産2トンの製氷機および魚箱による保管が可能な冷蔵庫を設備することで、氷の利用促進と魚の品質向上が図られる。
- ウ) 既存の魚市場は30年前の建設であり、魚の取扱い量に対して手狭になっている。本計画では荷捌き場、計量場、エラ腹抜きなど各作業に必要な面積の魚捌き場を整備するとともに、トイレ・シャワーは事務所用、市場関係者用、漁業者用に明確に区別して配置することでも、食品衛生の向上が図られる。

ワークショップを新たに整備することにより、首都セントジョージズなど地域外へ運搬する必要がなくなる。漁船・船外機エンジン・漁具資機材の修理は、その場で行えるようになり、漁船の維持管理が容易になる。

2) グランドエタン道路

グランドエタン道路は、グレナダ島中央の 600～700m 級の山々が連なる山岳地帯を横断しているため、狭隘・急勾配・急カーブ等の難所が多く、水産物などの地場産品や同生産資機材等を運搬する業務用車両にとっては通行上のボトルネックとなっている。本計画では、グランドエタン道路のうち最も通行の支障となっている道路区間の改修および橋梁の架け替え等を行うことにより、首都圏市場へのアクセスの向上を図る。

(2) 間接効果

1) 東西地域間の格差是正

本計画の実施により、プロジェクト目標が達成された場合に期待できる効果としては、同国の水産業が抱える問題の一つである東海岸の漁業振興の促進と、それによる漁業者の収入増加と生活向上、さらに東西間の地域格差是正などがあげられる。

2) 漁業者の生活向上効果

水産施設および東西を横断する連絡道路の整備により、漁業資源の持続的かつ効果的な利用が図られ、ひいては漁業者の技術向上、漁業生産の安定、収入安定、生活安定が図られ、国家開発の基本政策である貧困削減、失業率減少、国民の福祉改善と生活向上に寄与する。

本計画施設の建設や関連機材の調達が完了した後、これらの施設・機材をさらに効果的に活用するために、以下の課題に対処することを提言する。

(1) 要員の配置

本計画施設を有効に活用し、プロジェクトの目標を達成していくには、グレナダ政府がすでに実績のあるグレンヴィルの魚市場施設の管理運営とともに、新たに建設される水揚棧橋、漁民ロッカー等施設の管理運営体制についても、直接裨益対象者である漁業者およびその漁協組織との協力体制を確立し、そのための適正な要員の配置を行うことが必要である。

(2) 予算の確保

施設および機材にはそれぞれの耐用年数があり、必ず更新が必要になることから、事業収益の一部を積み立てて準備しておくことが重要である。したがって、グレナダ政府が、施設の維持管理、機材の更新および道路・橋梁の維持管理のための予算確保を計画的に行うことが必要である。

目 次

目次

序文

伝達状

位置図/完成予想図/写真

図表リスト/略語集

要約

第1章 プロジェクトの背景・経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・	1-1
1-1 当該セクターの現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・	1-1
1-1-1 現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・	1-1
1-1-2 開発計画・・・・・・・・・・・・・・・・	1-6
1-1-3 社会経済事情・・・・・・・・・・・・・・・・	1-10
1-2 無償資金協力要請の背景・経緯及び概要・・・・・・・・	1-13
1-3 我が国の援助動向・・・・・・・・・・・・・・・・	1-16
1-4 他ドナーの援助動向・・・・・・・・・・・・・・・・	1-18
第2章 プロジェクトを取り巻く状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・	2-1
2-1 プロジェクトの実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・	2-1
2-1-1 組織・人員・・・・・・・・・・・・・・・・	2-1
2-1-2 財政・予算・・・・・・・・・・・・・・・・	2-5
2-1-3 技術水準・・・・・・・・・・・・・・・・	2-7
2-1-4 既存の施設・機材・・・・・・・・・・・・・・・・	2-8
2-2 プロジェクト・サイト及び周辺の状況・・・・・・・・	2-12
2-2-1 関連インフラの整備状況・・・・・・・・	2-12
2-2-2 自然条件・・・・・・・・・・・・・・・・	2-14
2-2-3 その他・・・・・・・・・・・・・・・・	2-19
第3章 プロジェクトの内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・	3-1
3-1 プロジェクトの概要・・・・・・・・	3-1

3-2	協力対象事業の基本設計	3-27
(A)	グレンヴィル水産施設関係	3-27
3-2-1	設計方針	3-27
3-2-2	基本計画	3-31
3-2-3	基本設計図	3-75
(B)	グランドエタン道路・橋梁改良	3-81
3-2-1	設計方針	3-81
3-2-2	基本計画	3-83
3-2-3	基本設計図	3-102
(C)	水産施設及び道路橋梁関係共通	3-114
3-2-4	施工計画／調達計画	3-114
3-2-4-1	施工方針／調達方針	3-114
3-2-4-2	施工上／調達上の留意事項	3-115
3-2-4-3	施工区分／調達・据付区分	3-116
3-2-4-4	施工監理計画／調達監理計画	3-117
3-2-4-5	資機材等調達計画	3-117
3-2-4-6	実施工程	3-118
3-3	相手国側分担事業の概要	3-122
3-4	プロジェクトの運営・維持管理計画	3-123
3-5	プロジェクトの概算事業費	3-124
3-5-1	協力対象事業の概算事業費	3-125
3-5-2	運営・維持管理費	3-126
3-6	協力対象事業実施に当たっての留意事項	3-128
第4章	プロジェクトの妥当性の検証	4-1
4-1	プロジェクトの効果	4-1
4-2	課題・提言	4-3
4-3	プロジェクトの妥当性	4-4
4-4	結論	4-5

[資料]

1. 調査団員・氏名
2. 調査行程
3. 関係者（面会者）リスト
4. 当該国の社会経済状況（国別基本情報抜粋）
5. 討議議事録（M/D）
6. 事前評価表
7. 参考資料／入手資料リスト
8. 自然条件調査結果